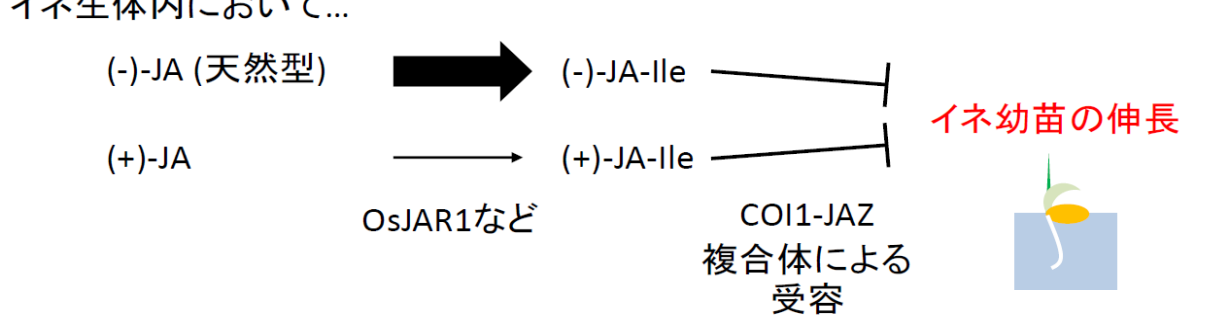


バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究者および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>日本農芸化学会2017年度大会</p>
<p>演題名</p>	<p>光学活性ジャスモン酸のイネにおける生理活性</p>
<p>発表者</p>	<p>○<u>宮本皓司</u>、<u>内田健一</u>、<u>湯本絵美</u>、<u>酒澤智子</u>、<u>柴田恭美</u>、<u>横田孝雄</u>、<u>飯野盛利</u>、<u>山根久和</u>（植物化学研究室）</p>
<p>内容</p>	<p>ジャスモン酸（JA）は、ストレスに対する防御応答の誘導や老化促進、伸長の抑制などの様々な生理活性を有する植物ホルモンである。本研究では、JAおよびその活性型であるジャスモノイルイソロイシン(JA-Ile)の各種異性体の生理活性をイネの伸長抑制活性を指標に解析した。その結果、イネ生体内において非天然型の(+)-JAも(+)-JA-Ileへと変換され、生理活性を示すことが明らかになった。また、(+)-JAが(-)-JAよりも活性が弱い原因の1つとして、JAからJA-Ileへの変換効率に差があることが考えられた。なお、本発表は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」による支援を受けて行った。</p>
<p>関連画像</p>	<div style="text-align: center;"> <p>イネ生体内において...</p>  <p>OsJAR1など</p> <p>COI1-JAZ 複合体による受容</p> <p>イネ幼苗の伸長</p> </div> <p>図 ジャスモン酸(JA)およびジャスモノイルイソロイシン(JA-Ile)の生理活性</p>